



授業研究会参加レポート

10月10日（水）附属桐が丘特別支援学校の第2回授業研究会にグループより1名が参加させていただきました。

授業研究会は6つの授業が対象となっており、その中の高等部1・2年（15名）保健体育の授業を参観し、その後の授業研究会に参加しました。

授業は体育館で4チームに分かれ、リレーのバトンパス（実際にはタッチ）の練習とタイムトライアルを行う内容でした。チームでバトンパスの技能を高めることにより、タイムの短縮につなげる「課題解決学習」であるということをはじめに全員で確認してから、バトンパスの練習→タイムトライアル→バトンパスの修正→2回目のタイムトライアルという流れで進みました。4名の教員が各チームに加わってアドバイスをしながら、生徒同士でも相談し、両走者がスピードに乗った状態でバトンパスを行うということの課題解決に、生徒が主体的に取り組んでいる様子を見ることができました。

生徒はバトンパスでタイムを縮める意義を理解し、スピードに乗ったままバトンパスを行うことができる限界を目指して試行錯誤していました。バトンを渡す走者、受け取る走者そしてチームで行うからこそこの課題であり、これまで運動経験を積み重ねてきた高等部の生徒だからこそ体験できるスピード感ではないかと感じました。

その後の授業研究会は、講師の山本昌邦先生（横浜国立大学名誉教授）、松原豊先生（筑波大学教授）と授業をされた体育科の先生方を含め9名が参加しました。評価の観点については講師の先生からも丁寧なご助言があり、多くの意見交換がされました。

指導案に示されている指導の工夫や手立て・配慮については、実際に授業を参観することで具体的にイメージすることができ、教科や障害種を越えて参考になる考え方を知ることができました。また、授業研究会で話題の中心となった評価については、様々な観点から何をどう評価していくのかということ、自分が授業者になった視点で改めて考えるきっかけになりました。

今回授業を参観させていただき、高等部における教科指導の授業が、違う障害種、学年、教科等においても参考になることはとてもたくさんあると感じました。専門領域が違うからこそ違った視点で授業を見たり、授業研究会に参加したりすることができるということがとても貴重な機会でした。

桐が丘特別支援学校の先生方、授業の参観、授業研究会の参加をさせていただき、ありがとうございました。



研究授業の様子



リレーのバトンパス（運動会）